

## 日蓮聖人生誕地跡地調査について

### ◆ 調査について

#### (1) 目的

本調査は、2021年（令和3年）2月16日に日蓮聖人御降誕800年を迎えるにあたり、海中に沈んでいるとされている日蓮生誕の地を明らかにし、これまで語り継がれてきた伝説の解明と、文化財としての位置付けなども検討しながら、新たな観光資源の開発と、地域の活性化を目的としています。

#### (2) 協力者

小湊100人会議のコーディネーターも務めた総務省地域力創造アドバイザーの高野誠鮮氏、日蓮宗調査の第一人者である立正大学仏教学部の寺尾英智氏、海洋考古学に精通した東京海洋大学の岩淵聡文氏、近藤逸人氏との連携により、令和元年度から実施したものです。

#### (3) 資料調査、現地調査【令和元年度】

2019年（令和元年）5月16日から5月20日にかけて、東京海洋大学岩淵教授、近藤教授及び学生2名が鴨川入りし、郷土資料館学芸員から提供された資料を基に調査工程等の確認、また、地元の有識者や周辺の海をよく知る海士、市内日蓮宗の住職などから聞き取り調査を行うとともに、内浦湾の入り口にある太平洋側の小弁天島と大弁天島周辺の海岸線の目視調査とドローン空撮による現地調査を行いました。

#### (4) 現地調査の結果 及び 調査場所の変更

この周辺では、古くから、「海中で真水が出ているところがある」「海中で井戸を見た」などの言い伝えがありますが、当該調査では発見に至りませんでした。

そこで、古い文献からも聖人の生誕地であったとされる「片海（かたうみ）」という地名をを手がかりに調査場所を変更することとし、内浦湾の「鴨川ホテル三日月」西側周辺の海底（水深10m程度）を広範囲にわたって無人調査機（自立型海上無人ロボット＋サイドスキャンソナー）を用いて海底調査を行うこととしました。

#### (5) 海底調査の延期【令和元年度 変更契約 令和2年度業務内で実施へ】

しかしながら、令和元年房総半島台風、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初のスケジュールから大幅に遅れ、2020年（令和2年）9月及び11月に調査を実施する運びとなりました。

#### (6) 海底調査（自立型海上無人ロボット、サイドスキャンソナー）【令和2年度】

本調査には、東安房漁協天津小湊支部、妙の浦遊覧船協業組合などにも協力をいただ

きながら、東京海洋大学が開発した自律型海上無人ロボット（ASV）を使用し、ASVの下部に固定したサイドスキャンソナーにより内浦湾海底の音響画像データを取得しました。

#### （7）海底調査の結果 及び 考察

音響画像データ解析により内浦湾の内奥部の海底には、東から磯（岩礁）が広がっており、その次に砂泥の海底、そのさらに西側からふたたび磯（岩礁）地帯が広がっていることがわかりました。

岩淵教授によると、「海岸部にあった中世の漁村が沈降したとすれば、以前は陸上にあった磯が砂泥に覆われており、その上に掘っ立て柱による作られた家屋が分布し、それが沈降と同時に、砂泥とともに流失したと考えるのがもっとも妥当であり、今は海底にある磯（岩礁）の上にかつての漁村の痕跡が残っている可能性は低いと考えられる。しかしながら、その流失物がちょうど海底の磯と砂泥の境界線付近の海底下に埋没している可能性はある。内浦湾の内奥部の砂泥から成る海底には、いくつかのポイントにおいて海底からの突起物が観察されており、これらはすべて、独立した岩礁である可能性が高いが、何らかの人工物の痕跡あるいは沈降後、海上からの投機物であるという可能性を排除することはできない。」とのことでした。

#### （8）今後の調査

今回の調査結果から音響画像データにより判断するには限界があり、最終的には水中考古学の見地からダイバーによる潜水目視調査を実施する必要があるため、東京海洋大学と地元ダイバーの協力により令和3年度に実施を予定しております。

◆ 本事業の成果

(1) 世界的学会での発表

本調査の研究成果については、東京海洋大学 岩淵教授・近藤教授らにより、2021年11月に台湾で開催予定の第4回アジア太平洋地域水中文化遺産会議でも発表される予定となっております。

(2) メディアへの露出・協賛

本調査は、日蓮聖人御降誕800年プロジェクトと題し、日蓮聖人の生誕地を探すという大きなテーマのもと実施されました。今回、生誕地の発見や生誕地の痕跡などに直接的につながるものの発見等には至りませんでした。御降誕800年という大きな節目であること、県内でも例を見ない調査であったこと、調査事業費については、本市でも初となるクラウドファンディングを活用したことなど、メディア等にも多数掲載していただき、本市のPRに大きな役割を果たしました。

・新聞 9社

読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、東京新聞、共同通信社、千葉日報、中外日報、(株)日蓮宗新聞、房日新聞ほか

・テレビ

NHK ニュース

・インターネット

NHK ニュース、房日新聞、カモ旅、誕生寺HP、鴨川市観光協会HP、毎日新聞、東京新聞、産経ニュース、日本経済新聞、朝日新聞デジタル、中部経済新聞、千葉日報オンライン、西日本新聞ニュース、沖縄タイムズほか

・協賛（ガバメントクラウドファンディング） 25件

日蓮宗、日蓮聖人門下連合会、鴨川グランドホテル、ほか個人22名  
総額1,805,000円（団体、企業1,010,000円 + 個人795,000円）

◆ 新たな観光資源化、商品化【令和3年度】

新型コロナウイルス感染症の影響は、当初、数十万人の入込を想定していた日蓮生誕800年祭についても、規模を大幅に縮小するなど、観光面で大きなダメージとなっておりますが、今回、得られた調査データ等を、新たな観光資源に結びつけ、「日蓮聖人生誕の地 鴨川」を広くPRしていきたいと考えております。

(1) シンポジウム

- ・ 調査及び誘致事業の報告及び周知

※論者候補：岩淵教授、近藤教授、寺尾教授、高野アドバイザー、誘致委員長、  
誕生寺、鴨川市

(2) コンテンツを活用した、観光資源化及び商品化

- ・ 各調査により得られた情報を活用した映像コンテンツの作成（一部は日蓮上人生誕イベントにおいて紹介された。）
- ・ 日蓮ゆかりの地を巡る周遊ルート、アプリ開発（サイクリストやバイカーをターゲット）
- ・ モニターツアーの実施